



北陸学院大学

レデック
R E D e C
地域教育開発センター

活動報告書 2018

連続公開講座 ～いのちの重さと輝き～

あなたを必ず幸せにする人生の幸福論
～ 地域における在宅介護と看取りの視点から ～

中村 伸一 氏

2018年6月30日(土)

2018年度は、福井県おおい町で総合医として長く地域医療に取り組んでいらっしゃる中村伸一先生をお招きしました。

研究結果や統計データ、そして現場での出来事から、幸せに人生を送るヒントがどんどん具体化されていき、わかりやすく聞くことが出来ました。加えて、先生は終始肩の凝らないテンポの良い話し方でお話し下さり、笑いあり涙ありの中、あっという間に時間が過ぎました。

参加者の感想には「楽しみにしていた、楽しかった、勉強になった、実践していきたい」が多く、10代から60代以上の方まで、また学生、医療福祉従事者の方、一般の方、それぞれに合った形でお話が響き、明日への第一歩のきっかけとなったことが伝わりました。



コーディネーター：三田 陽子(短期大学部食物栄養学科)

特別講座 自分の人生を生きるヒント

2018年4月18日(水)

白井 尋 氏

卒業生が学生時代に「自分」の存在について悩んでいた時に白井氏と出会い、後輩たちにも白井氏の話聞いてもらいたいという熱意からこの講座が実現しました。

白井氏はベトナムで恵まれない若者の職業訓練や自立支援活動をされています。多くの学生が「失敗は存在しない。それは成長であり体験なのだ。」という言葉から、チャレンジすることの意味、自分の可能性について考えることが出来、とても有意義な時間であったと思います。



学びの接続をビデオ・トークで考える

第1回 赤ちゃん期の学び方

2018年6月23日(土)

話題提供: 谷 昌代(人間総合学部子ども教育学科)
協力: ほくりがくいんだいがく赤ちゃんサロン

第2回 小学校生活を通じて学ぶこと

2018年8月7日(火)

話題提供: 福江 厚啓(人間総合学部子ども教育学科)・かわい幼稚園の先生方

第3回 思春期に出会うこと

2018年10月27日(土)

話題提供: 齊藤 英俊(人間総合学部子ども教育学科)・広岡こども園の先生方

コーディネーター: 大井 佳子・向出 圭吾(人間総合学部子ども教育学科)

第1回は、参加者は42人で、他学科の先生を含めて大学教員が5名、保育所(含む保育所から移行した認定こども園)18人、幼稚園(含む幼稚園から移行した認定こども園)10人、保護者7人、学生2人。第2回、第3回には小学校の先生が参加いただき、他所ではなかなかできないメンバー構成での討議が展開されました。

テーマを変えながら積み重ねてきたビデオ・トークセミナーですが、今年度は、大学の先生たちが継続して多数参加いただいたことと、赤ちゃん・サロンの保護者、かわい幼稚園の卒園生の保護者、広岡こども園の在園児の保護者の参加があったことが特徴で、映像というモノを介することによって立場や肩書の違いを超えた対等な討議が可能となるビデオ・トークの本領発揮のシリーズとなりました。



社会を読み解く

第1回 コミュニケーションについて考えよう

講師：松下 健(人間総合学部社会学科)

最少催行人数に達しなかったため、中止となりました。

2018年6月16日(土)

第2回 大介護時代を乗り切るために

講師：真砂 良則(人間総合学部社会学科)

最少催行人数に達しなかったため、中止となりました。

2018年7月7日(土)

第3回 和食の特徴と成立過程

講師：小林 正史(人間総合学部社会学科)

この講座では、中世に和食が成立する以前の弥生時代～古代(5世紀)では東南アジアと共通性の高い食文化(パサパサした米がカギとなる特徴)が広まっていたこと、および、現在に通じる和食に転換する過程をみると「粘り気の強い米品種」への漸移的な変化がカギとなっていることから、和食の核となるのは極東地域の環境に適応した「粘り気度の強いウルチ米」であることを強調しました。これは、米飯の重要性が急激に低下している現代日本の食文化に対する問いかけでしたが、講座参加者の何人かからは好意的な反応を頂けてうれしく思いました。



2018年10月27日(土)

現代を識る

第1回 旅行学入門

講師：本間 千重子 氏(北陸学院大学非常勤講師)

コーディネーター：須田 久美子(短期大学部コミュニティ文化学科)

現役の通訳・ツアーコンダクターであり、本学の非常勤講師でもいらっしゃる本間千重子先生を講師としてお招きしました。

旅行業界のことに触れた後、ツアー引率中のハプニングなどいろいろなエピソードを聞かせて下さいました。そして、世界各地の名物を紹介したクイズや参加者との質疑応答と、盛り上がりの内に時間がきてしまいました。先生は、実体験を面白おかしく話しながら、どのような環境にあっても前向きに、positive mindをもって歩んでいくことの大切さを私たちに語って下さいました。

参加者からは、「実際の体験談を聞けて良かった、いろいろなハプニングも楽しむつもりで乗り越えたい」などの声が寄せられ、まさしく大好評でした。



2018年6月16日(土)

第2回 スタバ vs コメダ -コーヒーショップの経営戦略-

講師：野林 晴彦(短期大学部コミュニティ文化学科)

2018年10月27日(土)



コーヒーショップという身近な事例で経営戦略を知り、考えていただくことを目的に実施しました。大手のチェーン「スターバックス」「コメダ珈琲所」に、「ドールコーヒー」を加えた3社を取り上げ、そのターゲットやコンセプトの違いを紹介し、戦略理論での解説を行いました。参加者7名のうち5名が一般の方で(2名は学生)、これまでの経験や経営の知識に基づく質問が多くなされ、テーマへの関心の高さを感じました。参加者の方の経営学・経営戦略へのさらなる興味につながれば嬉しく思います。

食と暮らしを考える

第1回 親子で楽しむおやつづくり ～からだも心も満足～

2018年8月11日(土)

講師：三田 陽子・俵 万里子(短期大学部食物栄養学科)

早々に定員に達する申し込みをいただき、当日は、つぶしたり丸めたり、子どもたちが達成感を味わいながら作れる芋のおやつ、大人も子どもも形づくりを楽しめる搾り出しクッキーなどを親子一緒にゆっくり作っていただきました。

参加者の方々の感想には「美味しかった」「子どもがとても楽しんで調理していた」「なかなかゆっくり親子でクッキングに取り組めることがないので、いい時間だった」などがあり、タイトル通り親子で楽しんでいただけの講座となったと思います。今後もより良い講座になるよう内容を検討して参ります。



第2回 若い世代の魚クッキング ～手軽に、美味しく、鮮やかに！～

2018年10月20日(土)

講師：野村 京子 氏

コーディネーター：三田 陽子・俵 万里子(短期大学部食物栄養学科)

昨年度、食物栄養学科ミッション食育グループは、若い世代の魚介類摂取増をねらいとした食育活動「若者食育推進プロジェクト～やんぎょキッチン～」を行いました。本講座では、その活動から生まれた若者向け魚料理のレシピ集を使って調理実習を行いました。

当日はレシピ開発をリードして下さった食物栄養学科OGの野村京子さんを講師に迎え、美味しく作るポイントを直接伺いながらピザやデザートを作りました。

参加した若者の感想には「思っていたよりも簡単に作ることができた」「おいしかった！」「魚を食べやすかったレシピを簡単に衛生的に楽しく作れて良かった」などがあり、食育活動の成果が若い世代にさらにつながる講座となりました。



防災・減災

第1回 イザ！カエルキャラバン in 北陸学院

2018年7月7日(土)

協力：金沢エコライフくらぶ

コーディネーター：田中 純一(人間総合学部社会学科)

悪天候のため、中止となりました。

冬の連続公開講座 ～この地に生きる⑨～

すこやかないのちの風景

～マイナスをプラスに、フリースクールという選択～

森 要作 氏

2018年11月17日(土)



フリースクール「ワンネススクール」を主宰する森要作さんにお越しいただき、「いのちすべてとのつながりを回復する文化」を提唱し長年子ども・若者に向き合ってきた森さんが考える「学ぶこと」「生きること」について理解を深めました。多彩な活動実践は、既定の教育の枠に収まり切らないユニークなものであり、スクールは一人ひとりが自らの潜在力に気づき、それを取り戻していく場になっていることがわかりました。森さんの人柄が

表れている優しい語り口調もあって、参加した多くの方がワンネスの世界観に引き込まれていました。

コーディネーター：田中 純一(人間総合学部社会学科)



2018 年度 参加者数

連続公開講座	256 名	REDeC セミナー	9 講座	212 名
--------	-------	------------	------	-------

出張講座

本学教員が会場に出向き、一般の方向けに講義を行っている出張講座は、2018年度は32団体からのお申込みを受け、30回実施しました。



幼児・児童教育支援事業

あそび場JOJO

3時間をただただ自分の遊びで遊びつくすという設定は、今時の子どもたちには希少な時間で、園生活や学校生活に違和感をもつ子どもたちが毎回20人程度参加します。

今年度は小学校低学年の子どもたちの継続参加が多く、スタッフがラウンジに用意するモノ、外階段から続く屋外の自然環境を使って自分たちで遊びをつくり出していきます。スタッフは常連の学生リーダーに加えて、現場保育者、授業の一環で参加する学生と、回によってメンバーが変わるのですが、子どもたちはスタッフを活用して人について様々な試しを仕掛け、自分たちが主導権をもつ関係を楽しんでいる様子。これも他所ではなかなかできないこと。JOJOが保護者にはピアサポートの場を提供していることとあわせて、JOJOの取り組みのユニークさに注目いただいてテレビの取材や他県の研究者の見学が続きました。



クリエイショングループ

クリエイショングループは主に行政や、いろいろな子育て支援事業からの依頼を受け、それらが運営する催しに参加しています。スタッフとしてのお手伝いや、ステージパフォーマンスの提供などの活動が主な内容です。

また、この活動は学科の枠を越え、本学に在籍する学生すべての参加が可能です。一つのプログラムを完成させるまで他学科の学生同士が話し合い、理解しあい、刺激しあうことによって相互の良い学びになっていると思われます。イベントのステージパフォーマンスでは初めて会う子どもたちを対象に臨機応変な対応が要求されます。自分の立ち位置、言葉の選び方、使い方などを考えるよい学びにもなります。



金沢市教育プラザ・子育て支援

教育プラザでは、子ども教育学科の学生が一年を通して「子育て広場」をフィールドに子育て支援を実践的に学ぶ機会を得ています。また、地域に向けて年1回、本学主催企画を実施しています。今年度は食物栄養学科と子ども教育学科の共同企画「絵本の主人公になってお料理しよう！」を開催しました。3歳から未就学児までの親子6組が対象ですが、毎回大好評です。

長い歴史の中で培ってきた本学の学問分野に関する研究とその成果を、これからも地域に向けて発信していきたいと考えています。

MAGONOTE塾

MAGONOTE塾は、「気になる子」との関わりをビデオ・トークで考える不定期開催の勉強会です。オファーいただき、拡大版の園内研修として2回開催しました。

★8月27日(月) 18:00～21:00 会場とビデオ・話題提供:A幼稚園

参加者は会場園から4名、園外から17名の計21名。

お集まりの時間だけれど先生が次々と起こるハプニングへの対応に追われ、周りの子どもたちは待つだけになっているのではないかと危惧されてのオファー。5分程度のビデオ映像をコマ送りのように止めながら見ていくと、それぞれの子どものプランが見え、「気になる子」の存在がクラスの子どもに自発性や遊びの発想を高めていることが覗かれて子どもへの信頼が湧いてきます。「3歳児なのに落ち着いている」という園外の先生からの感想も提供園の先生には新鮮だったようで、園を超えて保育を見ることの意義が納得されたのでした。

★2月10日(日) 10:00～12:00 会場:金沢市教育プラザ富樫 ビデオ・話題提供:B保育所

参加者は話題提供園から保護者を含めて10名、園外から9名の計19名。

就学に際しての引継ぎについて考えたいとオファー。年長児が廊下でリズム運動の練習を始めたところへコンビカーに乗って入ってきた子どもの動きからオニゴツコに・・・映像を何回も見返し「なぜ、こうしたんだろう？」とそれぞれの子どもの思いを読み取っていきます。周りの子どもとのズレに不安そうな表情を見せながら自分なりに周りの子どもに働きかける姿から、合理的配慮と、生まれている興味・関心を引き継ぐ「学びの接続」について考えました。

キャリアアップ講座

管理栄養士国家試験受験対策講座

今年度は、9月から10月の入門編は受講生15名対象に昼の部(本学)と夜の部(金沢市女性センター)で実施しましたが、12月からの応用編は受講希望者が5名に満たなかったため開講しませんでした。

9～10月は、例年に準じて、受講初日に模擬試験(第32回国家試験)と合格者の体験談を聞く機会を設け、11月後半には東京アカデミーでの模擬試験を受験してもらいました。

今年度の受講者は、卒業生12名(1991年度から2015年度)、在学生2名、一般の方1名でした。

北陸学院大学スイーツ研究所

スイーツ研究所は、まちなか学生まつりや大学祭でのオリジナルスイーツの販売に加え、小学生を対象としたおやつ教室を初めて開催しました。

試作を重ねることにより食材への理解を深め、完成した新じゃがのスイーツは、簡単で美味しいと好評で、子ども達、保護者の方々と、「作る楽しさ」「食べる楽しさ」を一緒に味わうことができました。子ども達に教える体験を通して、スイーツ作りの知識をより深める機会にもなりました。



ともいき塾

よりそいの花プロジェクト

よりそいの花プロジェクトでは8月に岩手県陸前高田市、12月に岡山県倉敷市真備町にて災害ボランティア活動を実施しました。

陸前高田市では「うごく七夕まつり」に参加し、これまで継続して支援してきた森の前地区の住民らと「森前組」の山車を引きながら、整備が進む新市街地を練り歩きました。

岡山県倉敷市真備町では、避難所・仮設住宅で手作り新聞を配布する高校生グループ「JKNote」のメンバーと共に、復興イベントへの参加、仮設住宅を訪問し住民の生活ニーズ調査等を実施しました。



その他の地域貢献活動

平成30年度高齢消費者被害防止寸劇出前講座事業(石川県)

人間総合学部社会学科 真砂ゼミ

石川県の「平成30年度高齢消費者被害防止寸劇出前講座事業」に本学社会学科の真砂ゼミが採択されました。

テーマ: 架空請求

【学外公演】

日時: 平成30年10月13日(土) 10:00～11:00

会場: 志賀町 牛ヶ首集会所

日時: 平成30年11月4日(日) 12:30～13:00

会場: 七尾市 能登島地区コミュニティセンター

日時: 平成30年11月17日(土) 13:30～14:00

会場: 野々市市 位川会館

【学内公演】

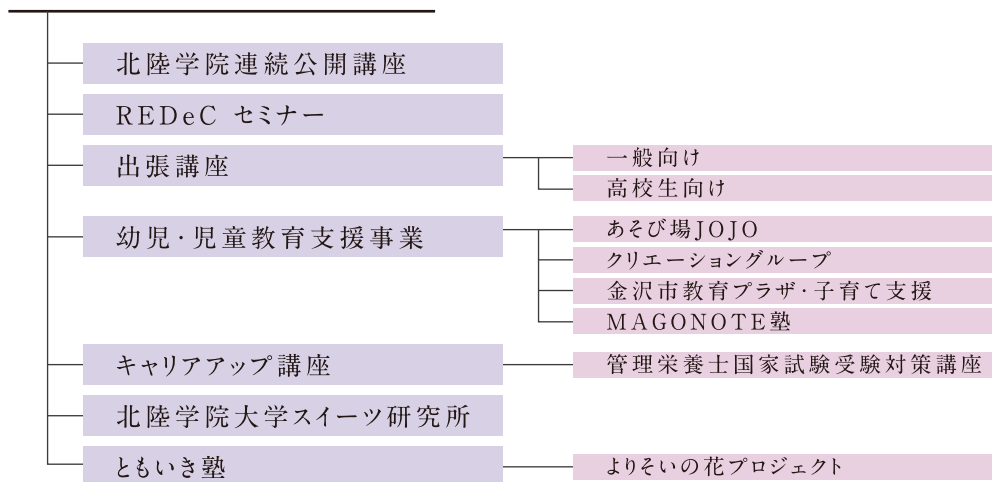
日時: 平成30年10月19日(金)・20日(土) 13:00～13:30

会場: 北陸学院大学



地域教育開発センター「^{レデック}REDeC: *Regional Education Development Center*」とは、北陸学院大学が行っている学問分野(幼児児童教育、英語及び英語教育、心理学、社会学、食生活他)に関する研究の成果をもって地域社会に貢献することを目的とする組織です。

REDeCの活動



2018年度北陸学院大学公開講座・REDeC セミナーへ多くのご参加をいただき、誠にありがとうございました。

2019年度も皆様に喜んでいただける講座を多数ご用意し、お待ちしております。



北陸学院大学

学術情報研究・社会連携センター

地域教育開発センター

〒920-1396

石川県金沢市三小牛町イ11番地

TEL: 076-280-3856

E-Mail: reddec@hokurikugakuin.ac.jp